

ユニバーサルデザイン化推進テキスト

資料編



大分県教育センター
イメージキャラクター
ヤリガイくん

校内研修

校内でUDの理解、推進を図りたい。

研究協議の例A 【個人実践の検討 現状分析から具体的取組へ】

研究協議の例B 【個人実践の検討 具体的方策の収集】

研究協議の例C 【組織的取組の検討 個人実践の共有、取組事項の精選】

研究協議の例D 【組織的取組の検討 取組の分類・分析、共通理解】

研究協議の例A 【個人実践の検討 現状分析から具体的取組へ】

準備物 : UDハンドブック、ワークシートA、タイマー
 グループ : 4人グループ〔学年別、教科別、ランダム〕
 時間 : 50分程度

協議のねらい: 自分の学級(ホームルーム)や授業の現状分析に基づき、具体的な取組事項を検討する。

1. 説明 (5分)
 - 協議のねらいと進め方
2. 各自でワークシートの①～④を記入 (10分)
 - ①② : 学級(ホームルーム)や授業の現状と望む姿を明確にしましょう。
 - ③ : 現状の分析は子どもと教員の相方の視点から考えましょう。
 - ④ : UDハンドブックを参考に対処策を考えましょう。
3. グループ協議 (30分)
 - ③ : ○○も要因では?
 児童は○○って思っているかもしれない。
 - ④ : この視点の取組も必要では?
 私だったらこうする。
 - 話し合った内容は⑤に記入する。

※時間が短い場合は、ペア協議 (15分) に変更する。
4. 自己まとめ (5分)
 - グループ協議を受けてワークシート修正、追記する。
 - 具体的な取組事項を記述する。



ワークシートA 記入例

①こんな学級(ホームルーム)や授業の気になる様子 ・ 片付けられない。 ・ ノートを片付けずに遊びに出る。 ・ 注意してもきいていない。	②こんなふうになってほしい ・ ノートやファイルをきちんと自己管理して、提出してほしい。 ・ 注意を聞いてほしい。
③どうしてだろう(児童生徒の視点で) ノートが3種類あるからわからないのかも。朝の時間は教卓前が混雑している。	③どうしてだろう(自分の指導・支援を見直す) ・ 「ちゃんとして」と注意するだけだった。 ・ ファイルの片付け場所を決めていなかった。
④こうしてみよう ※UDハンドブックを参考に ・ 朝の登校の時間に提出かごを配置する。色分けして見出しをつける。【2-②、3-①】 ・ ロッカー上を片付けて、個人ファイルが置けるようにする。【2-②】 ・ 「それはあっち」とかわず、「青いかごへ」と具体的に指示する【5-③】	⑤グループ協議で得られたアドバイス ・ 個人ファイルの片付け場所は決めるだけでなく、子どもたちに分かるように伝える、視覚化する。 ・ 提出かごは見出しだけでなく、色分けするとわかりやすい。

望む姿を具体的に書き出すことで、指導の明確化につながります。

児童生徒の「できない」ことばかりに目を向けがちですが、児童生徒の気持ちや言動の背景を考えたり、自分の指導を振り返ったりすることが大切です。



- 各自の取組事項の発表時間を設定する。
- 各自の取組事項を集約し、一定期間後に取組の進捗をチェックする。
- 各自の取組事項を学年別や教科別で共有し、組織的な取組につなげる。

ワークシートA 【個人実践の検討 現状分析から具体的取組へ】

名前:

①学級(ホームルーム)・授業の気になる様子

②こんなふうになってほしい

③どうしてだろう(児童生徒の視点で)

③どうしてだろう(自分の指導・支援を見直す)

④こうしてみよう ※UDハンドブックを参考に

⑤グループ協議で得られたアドバイス

研究協議の例B 【個人実践の検討 具体的方策の収集】

準備物 : UDハンドブック、ワークシートB、タイマー
 グループ : 6~8人グループ [学年・教科、ランダム]
 時間 : 50分程度

協議のねらい: 各自の課題について複数の改善策を収集する。

1. 説明 (5分)
 - 協議のねらいと進め方
2. 各自でワークシートの①を記入 (5分)
 - 主に改善したい、解決したい課題を簡潔に記入。
3. グループによる改善策の検討 (25分)
 - 右隣にワークシートを回す。
 - 回ってきたワークシートの空欄に①に対する改善策、アイデアを記入する。(2~3分程度)
 - 同様に繰り返し、1周するとグループ全員分の解決策のアイデアが収集できる。
4. 自己まとめ (10分)
 - 自分のワークシートで集まった改善・解決策のアイデアの中で、「これはいい、できそう」と思うものに☆をつける。
5. シェアリング (5分)
 - 2~3人でそれぞれの課題に対する解決策を紹介しあう。

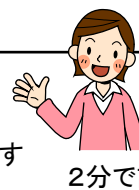


ワークシートBの記入例・進行イメージ

		
	①解決したい課題 児童が落ち着かず、私語が多く困っている。	
先生の話が長すぎ? ・具体的な言葉 ・短い文章	授業の流れを示して、先生の話を聞く場面を意識させましょう。	「しずかに」と言いながら、カードも提示する。 ・指示の視覚化など



シートを回す



シートを回す



- 進行役はタイマーなどを使って時間の経過を知らせます。
- 短時間での記入がポイントです。改善・解決策を簡潔に書きましょう。キーワードや簡単な図、イラストでも良いでしょう。
- たくさんのアイデアを集めるコツは、①の課題について、具体的に短い文章で書くことです。

ワークシートB 【個人実践の検討 具体的方策の収集】

名前:

	①改善したい、解決したい課題	

②2～3分で解決策・アイデアを記述 → 回す（繰り返す）

③集まった解決策、アイデアの中でよいものに☆をつける

④シェアリング

研究協議の例C 【組織的取組の検討 個人実践の共有、取組事項の精選】

準備物：UDハンドブック、チェックシート、ワークシートC
 グループ：6～8人程度〔学年、教科別がよい〕
 時間：60分程度

協議のねらい：個人実践の交流・共有を行い、今後の学年別や教科別の取組を検討する。

1. 説明(5分)
 - 協議のねらいと進め方
2. 実践の振り返り(UDハンドブック チェックシート)(15分)
 - チェックシートで個人・組織の取組状況を点検。
 - ワークシート右半分の項目ごとに整理して記述。
3. グループ協議(30分)
 - すでに取り組んでいる事柄について情報共有。
 - 記入者各自が取り組みたい内容について学年別や教科別で統一すべきか、統一可能か検討。
 - 同様に全校で取り組みたい事項についても、全校で取り組むべきか、取り組みが可能か検討。
 - ワークシート左側にグループでの協議結果を記述。
4. グループごとに発表(10分)
 - すでに取り組んでいる事柄の情報提供。
 - 今後の学年別や担当教科で取り組む事柄の情報提供。
 - 全校で取り組みたい事柄について問題提起。
5. 各グループの協議内容や取組事項を集約(一覧に)して、共通理解を図る。

ユニバーサルデザイン 7つの視点 チェックシート	
※7つの視点に沿って、実践・授業を振り返ってみましょう。	
1 関係づくり	1) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保している。授業・活動の場を確保している。 2) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。必要に応じている。 3) 目・視・聴覚などの障がいがある児童・生徒の関与の場を確保している。 4) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。必要に応じている。
2 教室環境	1) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保している。 2) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。 3) 視覚・聴覚・身体・学習の障がいがある児童・生徒の関与の場を確保している。 4) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。必要に応じている。
3 学習や生活の基盤	1) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保している。 2) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。 3) 視覚・聴覚・身体・学習の障がいがある児童・生徒の関与の場を確保している。 4) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。必要に応じている。
4 授業の組み立て	1) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保している。 2) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。 3) 視覚・聴覚・身体・学習の障がいがある児童・生徒の関与の場を確保している。 4) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。必要に応じている。
5 教師の話し方、発問や指示	1) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保している。 2) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。 3) 視覚・聴覚・身体・学習の障がいがある児童・生徒の関与の場を確保している。 4) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。必要に応じている。
6 板書の仕方とノート活用法	1) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保している。 2) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。 3) 視覚・聴覚・身体・学習の障がいがある児童・生徒の関与の場を確保している。 4) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。必要に応じている。
7 教材・教具	1) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保している。 2) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。 3) 視覚・聴覚・身体・学習の障がいがある児童・生徒の関与の場を確保している。 4) 授業・活動の一人一人の関与の場を確保するために必要な配慮を行っている。必要に応じている。



• 時間が短い場合は、研修前に各自でチェックを済ませておくといいです。
 • チェックシートは校内の課題や学校教育目標をふまえて視点を絞ってチェックする方法もあります。



ステップアップ案

- グループ発表の後、全校による協議時間を設定する。
- 学年・教科代表や校内委員会等で協議し、全校共通の取組事項を設定する。

ワークシートC 【組織的取組の検討 個人実践の共有、取組事項の精選】

①チェックシートを各自でチェック

《担当学年又は教科：

》

②今後取り組みたい事柄などを記入

③グループ協議の結果を記入

○すでに取り組んでいる事柄(これもUDだった)

○グループの先生方がすでに取り組んでいる事柄(これもUDだった)

○自分の授業・学級(ホームルーム)・教科で実践したい事柄

○学年・教科で統一して実践したい事柄

○全校で取り組みたい、全校で話し合いたい事柄

○全校で取り組むと良いと思う事柄



研究協議の例D 【組織的取組の検討 取組の分類・分析、共通理解】

準備物 : UDハンドブック、チェックシート(コピー)、ワークシートD(模造紙やホホワイトボードに拡大)、付箋紙(2色)、カラーペン(太)
 グループ : 6~8人程度[学年、教科別がよい]
 時間 : 60分程度

協議のねらい: 今後の取組を検討し、取組事項の共通理解を図る。

1. 説明(5分)
 - 協議のねらいと進め方。
2. 実践の振り返り (UDハンドブック チェックシート)(10分)
 - 個人・組織の取組をチェック。
 - 付箋紙に記入。 **ピンク**: 特によく取り組んでいる事項
 黄: 今後の取組・改善が必要な事項
3. グループ協議(30分)
 - 付箋紙をワークシートD(模造紙)に貼っていく。
 - 2軸[組織—個人][すぐできる—時間がかかる]で分類。
 - 同じような内容の付箋をグルーピング。
 - キーワードや見出しをつけ、取組事項をまとめる。
4. グループごとに発表(15分)
 - すでに取り組んでいる点。
 - 今後の取組が必要な点。
 - ※グループを学年・教科別にするとうい。
5. 各グループ[学年、教科等]の協議内容取組事項を集約し(一覧に)して、共通理解を図る。



UDハンドブック表紙より

• 時間が短い場合は、研修前に各自でチェックと付箋紙への記入を済ませておくとういです。
 • チェックリストは校内の課題や全校目標に応じて視点を絞ってチェックすることもお勧めです。



ステップアップ案

- 年度初めや各学期末など、定期的に点検や協議をし、PDCAサイクルによる改善を図る。
- グループ発表の後、全校による協議時間を設定する。
- 学年・教科代表で協議し、全校共通の取組事項を設定する。

ワークシートD 【組織的取組の検討 取組の分類・分析、共通理解】

組織(全校)

すぐに取り組める

時間をかけて取り組む

個人(学級・ホームルーム、授業)